

明るく思いやりあふれる 月岡中学校を目指して

2年 奥野 愛望

私は、この月岡中学校で学ぶことができて、とても幸せだと感じています。なぜかというとうと、友達や先生がとても温かいからです。私がつらい思いをしているときは友達がそばに寄り添い、慰めてくれます。逆にうれしいときは、ともに喜びを分かち合ってくれます。そして、先生方はとても明るくて、優しく私に接してくださり、いつも励まされています。

こんな素晴らしい月岡中学校ですが、もつともつとよい学校になるのではないかと思い、2つの提言をします。

一つ目は挨拶です。生徒会では挨拶運動を盛んに行っています。その甲斐があって、以前に比べて挨拶がよくなったと、先生方からたびたびお聞きします。しかし、先日の生徒会新旧役員引継ぎ式では、前生徒会長岩下さんが「今回の生徒会は90点です。10点足りないのは挨拶する意味をわかっていないからです。」と話されました。私はこの話に強く共感しました。それは、私も以前から同じことを考えていたからです。

挨拶は他人とのコミュニケーションを円滑にし、人間関係を良好に保つものです。それは単に口先だけの

挨拶では生まれたいと思いません。本当の挨拶とは、相手に対する敬意や関心が相手に伝わるものでなければなりません。私は考えます。このような挨拶が広がれば、学校全体が明るくなり、心地よいコミュニケーションが生まれてくると思います。挨拶は互いの人間関係を築く第一歩。豊かな気持ちで明るい学校生活を送りたいものです。

二つ目は思いやりをもって行動することです。私の考える思いやりとは、相手の立場を理解し、相手の考えや思いをしつかり聞いてあげることです。思いやりのある行動は人々の心を温かくし、よりよい人間関係を築くことができます。

これは、私が右腕を骨折してしまった時のことです。私は右手で文字を書くので、授業のノートを書いたり、生活ノートに明日の伝達を書いたりすることができず、とても不慣れな思いをしていました。そんな時、友達が授業ノートを貸してくれたり、生活ノートに伝達を書いてくれたりして、なんとかやり過ごすことができました。また、両手を使うことができないので、給食の配膳を手伝ってもらったり、重い荷物なども運んでもらったりしました。さらに、家族や先生にもたくさんサポートしてもらいました。私はこの経験を通して、元気づけられ、人の温かさに触れ、改めて思いやりの大切さに気付かされました。

した。人々が助け合い、思いやることで社会全体が温かくなり、みんなの幸せにつながると考えます

話は変わりますが、私は将来数学の教師になることが夢です。小学校の時は、数式を操作して問題を解くことが苦手で、正直あまり好きな教科ではありませんでした。中学校に入学し、数学嫌いの私を大きく変えた出来事があります。それは、大森先生との出会いです。大森先生は、放課後の忙しい時でも私のために時間を割いていただき、とても優しく、丁寧に質問に答えてくださいました。そして、いつしか数学が好きな教科になりました。教師という素晴らしい仕事があることを知り、私も数学の先生になりたいと夢をもつようになりました。これも大森先生の思いやりに触れたことによるものです。



挨拶と思いやりは人を明るく、温かくしてくれる最高のもの。この月岡中学校を明るく思いやりあふれる学校にするため、私はだれとでも分け隔てなく心のこもった挨拶をし、困った人を見かけたら自分から優しく手を差し伸べていきます。そして将来、自分の夢がかなない、教壇に立つことができたとき、この月岡中学校

で身に付けた、挨拶と思いやりの心を次の時代の子供たちに伝えていきたいと思っています。



※敬意 (Respect) を払う大切さ

コミュニケーション能力を高める方法として「挨拶をする」「具体的に話す」「結論から話す」「比喻を使う」「傾聴する」「リアクションをとる」「相手の心理・気持ちを考える」「相手を否定しない」などがあります。これらの基本にあるのが「敬意」。三つに分けられます。

一つ目は「他者への敬意」。相手の存在価値や真価を認めることです。それにより、相手の敬意や害に対しても、受け止めることができる可能性が広がります。

二つ目は「原則への敬意」。自分自身の道徳的価値観を大切にすることです。社会的なマナーや道徳によるものがあります。

三つ目は「自らへの敬意」。思い悩みネガティブになることから抜け出すことです。自分にも、相手にも弱さがあると理解することが大切です。